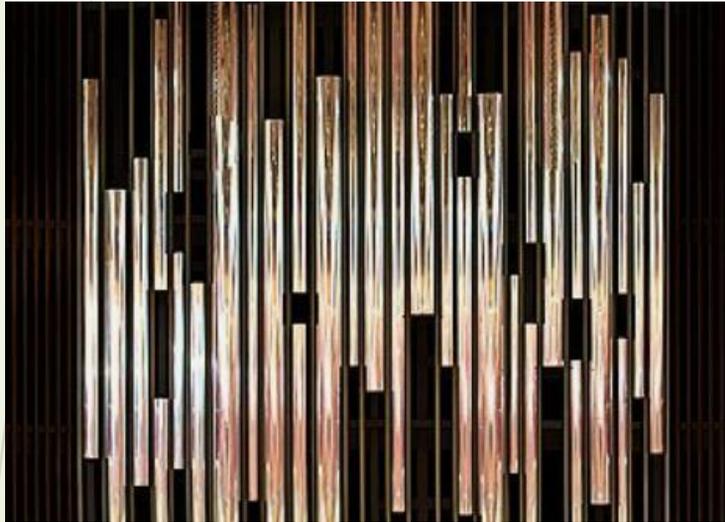


暗さを提案し、素材を売る！

暗さを売る！①

「明るさ」の部分で「暗さ」にするだけ。なんで暗さなの？と聞かれたら・・・ホテルや専門レストランは居心地を大事にするため、光は引き算で考えるんです。と回答します。これ、普段から心地よい空間を知っている人向けのトーク。これである程度のステータスがわかります。暗さを売るためには、光をあてる素材を決めなければなりません。この素材にフォーカスしその人に合った提案の幅を広げることで独自性を作ります。



一般常識の逆を突く
意外性を考える

照明計画は明るさを確保しそれを担保することが求められる。その逆は、暗さを考えた設計を売る。ということ。相手は「どういうこと？」と気になる仕掛け。暗さを設計する？が引つ掛かりもつと聞きたいに繋がる。

「あなたに合った心地良い暗さを提案します。」是非、発信してみよう。

「明るさ」の部分で「暗さ」にするだけ。なんで暗さなの？と聞かれたら・・・

ホテルや専門レストランは居心地を大事にするため、光は引き算で考えるんです。

と回答します。これ、普段から心地よい空間を知っている人向けのトーク。これである程度のステータスがわかります。

暗さを売るためには、光をあてる素材を決めなければなりません。この素材にフォーカスしその人に合った提案の幅を広げることで独自性を作ります。



灯りコラム
Vol.37



独自性を売る

「照明は明るくする道具」という、世間一般の常識を「暗さ」という表現に変え、顧客の感情を動かしながら、様々な素材を並べる。

素材は無限にあります。壁装材であれば、凹凸のある石・タイル・木・漆喰。家具やインテリア雑貨、コレクションなどの趣味に関わるもの等々。それに適した光を考える。決して明る過ぎない暗さを創ることがポイント。必須アイテムは「調光器」これがあれば何とでも出来ます。適したひかり

素材を活かすに適した光を選定するのは経験と勘が必要ですが、一度経験すれば、それを基準にマニュアル化すれば良いでしょう。

これが、他社ではなかなか真似できないけれど、社内では簡単に出来る仕組みと仕掛けです。

光を知り、光の扱い方を覚えてしまえば、水平展開が容易になります。

気になる「素材」に光をあてて、暗さを考えてみて下さい？

株式会社 灯り計画

照明計画を切り口に暮らしの照明技術？
提案の幅を広げてみる照明の効果
インテリアを引立てる照明の成果
豊かな暮らしには、照明の成果
や演出が必須アイテム。照明の成果
この場での必要アイテム。照明の成果
この場での必要アイテム。照明の成果
この場での必要アイテム。照明の成果
この場での必要アイテム。照明の成果

info@design-akari.com

Tel : 04-7196-7142